

## 幼児が主体的に活動し創造性を豊かにするための環境構成と援助の工夫

### ～なりきって遊ぶ「ごっこ遊び」を通して～

南城市立大里北幼稚園教諭 仲本留美子

## I テーマ設定の理由

### 〈今日的課題〉

今日の子どもを取り巻く環境は、社会の情報化や少子化、都市化などの変化に伴い、家庭や地域で子ども同士で学び合うことが少なくなっている。また、幼児期からテレビ・ゲーム・DVDなどの受け身の遊びが多くなり、子ども達の生活の中で間接的体験が増え、自然に触れて遊ぶなどの直接体験が減ってきている。人とのかかわりにおいても、応答性の乏しい間接的体験の中では、直接体験で得られるような豊かな感情体験を味わうことが少なく、自分の思いをうまく表現できない子が増えている。

幼児期において、周囲の環境に自らかかわり、五感を働かせ感じたり考えたりしたことを自分らしく表現し、教師や友達に認められる経験を積み重ね、自己肯定感の基盤を育むことが求められる。

### 〈幼稚園教育要領から〉

幼稚園教育要領「表現」では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目的としている。幼児が生活する中で、イメージを豊かにし、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことにより、豊かな感性や表現する意欲を育てることが求められている。また、内容の取扱い（2）では「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。」とある。

幼児が、自分の素朴な表現を教師や友達に受け止められる体験の中で、表現する喜びを感じ、表現する意欲を高めていくことが幼稚園教育に求められる。

### 〈本園の実態〉

本園は豊かな自然に恵まれた、1年保育の園児数12名という小規模園である。幼児は、身近な環境にかかわり遊ぶ中で、心が揺さぶられ、小さな発見や感動を友達や教師に伝える姿が見られる。

気の合う友達同士での「ごっこ遊び」では、友達とイメージを広げながら遊びを進めていくことができるが、仲間が増え、クラスみんなで「ごっこ遊び」をする時には、自分の思いばかりを主張する子、自分の思いを言葉でうまく伝えられない子がいて、イメージを共有できないことがある。

### 〈これまでの保育を振り返って〉

これまで、生活発表会における「劇遊び」になると、幼児が台詞を覚え、演じるという方法で進めてきたため、生き生きとした言葉や表現があまり見られなかった。自分なりに感じたことや考えたことを表現する過程を楽しむことや、友達とイメージを共有し、演じて遊ぶ楽しさを味わう「ごっこ遊び」を深めるような環境構成や援助の工夫が足りなかったと反省する。

### 〈本研究において〉

なりきって遊ぶ「ごっこ遊び」を通して、表現をする過程を楽しみ、友達と創り上げる喜びや楽しさを味わうために、幼児が主体的に活動に取り組み、創造性を豊かにするための環境構成と援助の工夫について研究を深めていきたいと思い、本テーマを設定した。

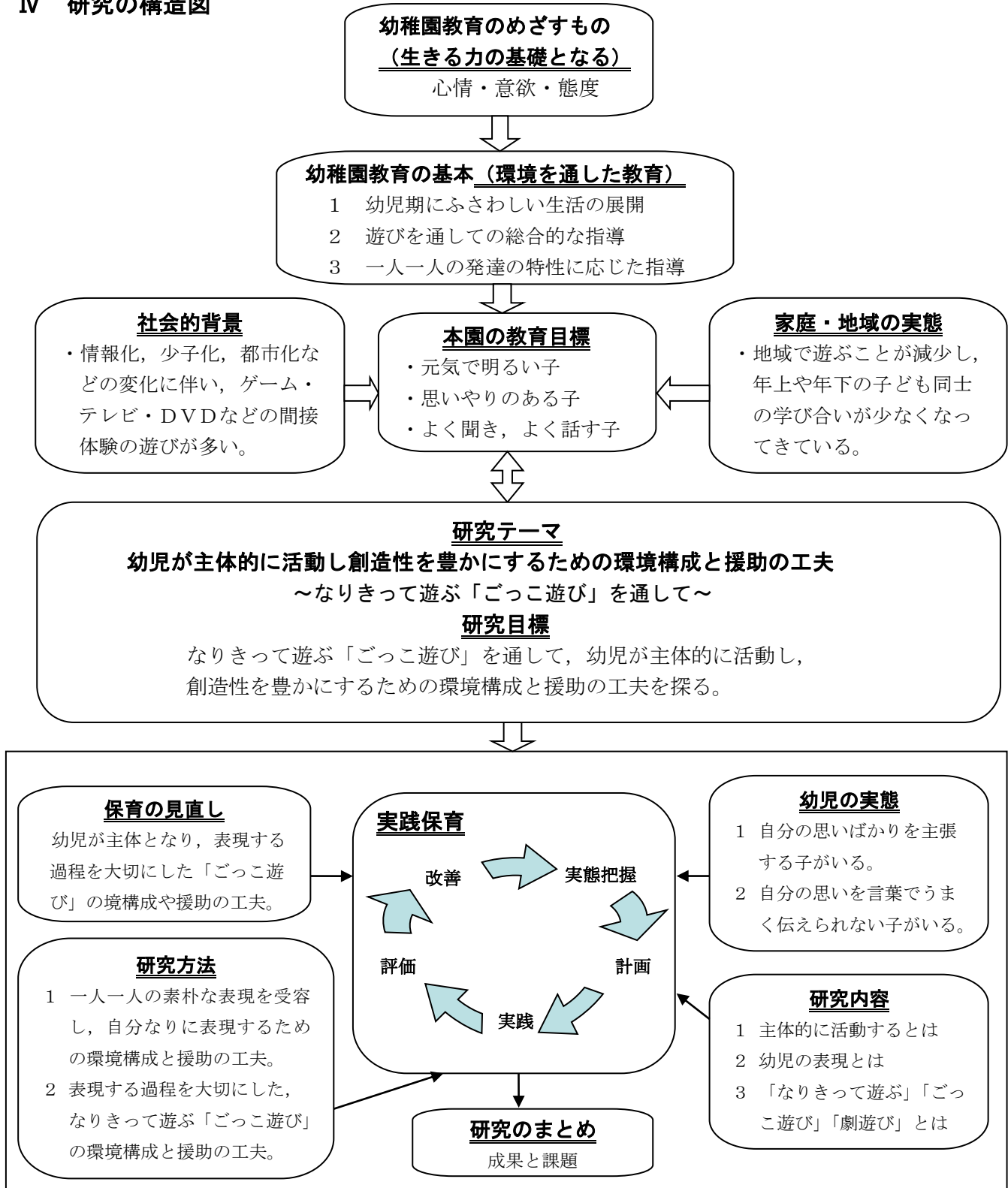
## II 研究の目標

なりきって遊ぶ「ごっこ遊び」を通して、幼児が主体的に活動し、創造性を豊かにするための環境構成と援助の工夫を探る。

### Ⅲ 研究の方法

- 1 一人一人の素朴な表現を受容し、自分なりに表現するための環境構成と援助の工夫。
- 2 表現する過程を大切にしたり、なりきって遊ぶ「ごっこ遊び」の環境構成と援助の工夫。

### Ⅳ 研究の構造図



## V 研究の内容 ※（太字は幼児，\_\_は教師のポイント）

### 1 幼児が主体的に活動するとは（保育内容・表現から）

#### (1) 幼児が主体性を発揮して生活する

遊びは、幼児が「何だろう」「どうなっているのだろう」「おもしろそう」などと興味や関心を抱き自ら環境にかかわっていく活動である。その活動においては「何をどのようにするのか」「いつまでするのか」など、すべて**幼児自身が選び、考え、決める**。遊びにおいて、幼児は主体として、自分の遊びを能動的に生み出している。幼児が主体性を発揮する中で、遊びは創造的になっていく。

自発的な遊びにおいて、幼児は主体的に生きることができる。そして、毎日の生活において、主体的に生きることが十分になされることにより、主体性がしだいに育まれていくのである。

#### (2) 主体的な活動のための環境構成

幼稚園教育は「環境を通して行う」ことを基本としている。「幼児期には幼児が体験を通して学ぶ」ということは、幼児がかかわる周囲の環境が重要であることを意味する。

「環境」とは、物的環境（遊具や用具）、自然や社会環境、人的環境（教師や友達）、時間や空間、それらが醸し出す雰囲気など、幼児を取り巻く状況のすべてを指している。

幼児が主体的に環境にかかわるためには、「かかわりたくなる」、「興味や関心を抱く」環境構成が必要である。興味や関心を抱くと学ぶことも多くなる。また、「幼児が興味や関心を追求し、深めていけるような環境構成をしたり、新たな興味や関心を引き起こさせるような環境の再構成をしたりすることで、「豊かな環境」「豊かな体験」を生み出し、豊かな表現を育むことができる。

#### (3) 幼児の主体性と教師の援助

遊びは、幼児が自分の興味や関心を主体的に追求する活動である。それゆえ、遊ぶ自由が与えられている子どもは、存分に興味や関心を追求できた満足感・充実感を覚えることができる。この満足感や充実感こそが幼児の意欲を高め、主体的な態度を培うのである。

幼児が教師に見守られているという**安心感や安定感**を基盤に、**心に解放感を感じていること**が大切である。教師が幼児との「信頼関係」を大切にし、「肯定的な言葉かけ」をすることで、幼児がありのままの自分を出せる。また、友達や教師に肯定的に受け入れられていると感じるとき、生き生きと行動し、自分の本心や自分らしさを素直に表現し行動するようになる。

日本の保育の基礎を築いた倉橋惣三氏は、「幼児は本来自分で充実する力をもっていることを見抜き、保育者はこの自己充実を支えなければならないと考えた。遊びの中で充実している子には、発展するような援助したり、充実できていない子に対しては一緒に遊んだり、興味を引く遊びを提示するなど一人一人の充実を図り、幼児の中にある発達する力を引き出すことが大切であるとした。

### 2 幼児の表現とは

#### (1) 領域「表現」のねらい（保育内容・表現から）

領域「表現」においてめざしているものは、「感性や表現する力を豊かにすること」と「創造性を豊かにすること」である。表現する力が豊かになるためには、その前提として、感性が豊かになることが必要である。つまり、美しいものを見て美しいと感じ、かわいいものを見てかわいいと感じる繊細な感覚が育つ必要がある。感じるということは、心が動くということである。幼児が周囲の環境とかかわり、「心を動かす体験を積み重ねることで感性が豊かになっていく。心が動かされるからこそ、その体験をもう一度してみたいと思うし、表現したいと思うのである。すなわち、感性を豊かにするということは、表現意欲を高めることと結びついているのである。

「創造性を豊かにする」ためには、幼児の**自由な発想と自由に表現することが保障されていなく**

ればならない。ねらい(2)(3)において「自分なりに表現して楽しむ」「様々な表現を楽しむ」とある。幼児が思い思いに自分らしい表現をすることで、表現すること自体の楽しさを味わい、充実感を覚えることになる。また表現する楽しさを知ることは、もっと表現したい、いろいろな仕方  
で表現してみようと表現意欲を湧かせ、結果として表現する力が育っていく。

このように、領域「表現」は、上手に表現させることを目指しているのではなく、技術の前提となる、表現意欲や意欲的に取り組む態度、繊細に物事を感じ取れる感性を養うことを重視しているのである。

## (2) 幼児が自由に表現することを大切にする

幼児は、感じたり、考えたりしたことをそのまま率直に表現することが多い。また、自分の気持ちを声や表情、身体の動きそのもので表現するなど、幼児の表現は素朴な形であらわされる。はっきりとした表現として受け止められない幼児の言葉や行為でさえも、教師は素朴な表現として受け止め共感することにより、幼児は様々な表現を楽しむことができるようになる。

幼児が生き生きと自分を表現することができるためには、幼児が心に解放感を感じていなければならない。幼児自身が自由に自分を表現できると感じられる時、のびのびと表現することができ、その結果として、豊かに表現する力が育まれるのである。

## 3 「なりきって遊ぶ」・「ごっこ遊び」「劇遊び」とは

### (1) 「なりきって遊ぶ」とは

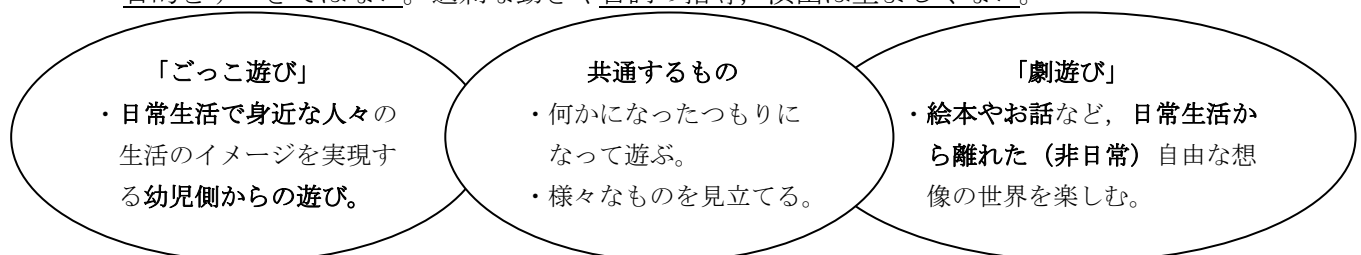
すっかりそのものになり、自分自身とは別人で、自分ではない自分を演じたり、周りの目を気にせずなりふりかまわず遊ぶこと。その遊びが本物らしく見えたとき、それになりきるためのプロセスがわかるとき、幼児はなりきって遊ぶことができる。よって教師は、本物らしく見立てて遊べる素材や用具、なりきるための気持ちを高めるための効果音などを用意することが大切である。

### (2) 「ごっこ遊び」とは

幼児期は、想像性が育つ時期であり、幼児は、虚構の世界、空想の世界を楽しむことが好きである。ごっこ遊びは、日常生活の中で身近な人々の生活に対するイメージを実現しようと、役を決め、身近なものを見立て、幼児の側から出てくる遊び。役割実現するというような抽象的遊びをいう。イメージを再現し、ものを見立てるようになるため、保育の場においてはさまざまなものを置いておくことが必要である。他者とイメージを共有するだけでなく、自分と異なる立場を経験することは、遊びを通して他者存在の気づきとなる。

### (3) 「劇遊び」とは

絵本やお話のストーリーを基盤として想像の世界で「ふり」や「つもり」を楽しむ遊び。ごっこ遊びと共通する要素も多いが、劇遊びが成り立つためには遊ぶ者同士で、ストーリーが共有されていることが前提となるため、よく知っている絵本や昔話が題材となる。日常生活から離れた、自由な想像の世界を楽しむ。劇遊びは、体験そのものに意味があるのであり、はじめから見せることを目的をすべきではない。過剰な動きや台詞の指導、演出は望ましくない。



## VI 研究の実際

幼児が、自分なりに表現することや表現する過程を大切に「ごっこ遊び」の環境構成と教師の援助を工夫し、2回の検証保育を行い、改善を図る。

### 1 検証保育（1回目 12月）「忍者になりきって遊ぶ」

#### (1) 設定理由

お楽しみ会に期待をもち「お楽しみ会には、踊りを踊ってサンタさんに見せたい」と家から3人の子が好きなCDを持ってきて、気の合う友達と踊る姿が見られる。これまで「たなばたさま」や「おおきなかぶ」のごっこ遊びをしてきて、友達同士で遊びを進める楽しさを味わっている。

「今度はクラスみんなでやりたいな」という子どもの声から、思いや考えを友達と伝え合い踊って遊ぶ中で、共通のイメージを持ち、なりきって遊ぶ楽しさを味わって欲しいと考え設定した。

#### (2) 保育のねらい




- ① 友達と思いや考えを伝え合いながら、なりきって遊ぶ楽しさを味わう。
- ② 共通の目的に向かって、イメージを共有し、クラスみんなで踊る楽しさを味わう。

#### (3) 検証のねらい

- ① 幼児一人一人の素朴な表現を受容し、自分なりに表現するための環境構成と援助の工夫（Ⅲ－1）。

#### (4) 検証保育の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
12月16日 (月)	幼児一人一人の素朴な表現を受け止める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S子が、お楽しみ会にダンスをクラスみんなで踊りたいと話す。</li> <li>・ 自分の思いを友達に伝え合っている。</li> <li>・ 女の子が踊る曲を「にんじゃりばんばん」に決め、忍者をイメージして踊る姿を見て、男の子も加わる。</li> <li>・ 「側転やでんぐり返しも入れよう。」と様々なアイデアが出る。</li> <li>・ 踊りに興味を示していないS男は一人で折り紙を楽しんでいる。</li> </ul>	<p>○ S子が思いを伝えられるように、話し合う機会をもつ。</p> <p>★ 互いの思いを受け止める。</p>  <p>★ 幼児のアイデアを認めたり、言葉や動きなど素朴な表現も受け止める。</p> <p>V-2 (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 踊りを決める中で思いを伝える姿が見られた</li> <li>・ 自分なりの表現を受け止められたことで、表現意欲が高まった。</li> <li>・ 明日はS男の遊びが充実するように援助する</li> </ul>
12月17日 (火)	忍者ごっこの中の興味を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手裏剣や剣など、小道具を作る。</li> <li>M子: 「煙玉を忍者に投げよう。」</li> <li>K子: 「面白いね、その間に隠れたら忍者みたいだね。」</li> <li>・ イメージが膨らんでいる。</li> <li>S男: 「忍者は、忍法隠れ身の術とかかって言うよ。」と忍者の言葉に興味を持つ。</li> <li>・ カラービニールで忍者の衣装を作り、忍者ごっこが始まる。</li> </ul>	<p>○ 忍者の小道具やS男の遊びが楽しめるように、十分な素材を用意する。</p> <p>★ 幼児の発想を認める。</p> <p>★ 素朴な表現を認め、他の幼児にS男の発想を知らせる。</p> <p>V-2 (2)</p> <p>○ 興味をもった幼児が増えたので、素材を増やす。</p> <p>★ 教師も共に忍者ごっこを楽しむ。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の幼児も忍者の言葉に興味をもつようになった。</li> <li>・ 小道具や衣装が出来上がるとより忍者らしくなり、忍者になりきってごっこ遊ぶようになった。</li> </ul>

<p>12月18日(水)</p>	<p>忍者ごっこを楽しむ。</p> <p>みんなで踊ることを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白のカラービニールで体を覆い、白い冷蔵庫と一体になって「忍法隠れ身の術」となりきる幼児がいる。</li> <li>・「<u>すごい！本物の忍者みたい！</u>」と、友達に認められる。 <b>V-3 (1)</b></li> <li>・「園庭に逃げよう。」と園庭でのびのびと忍者ごっこを楽しむ。</li> <li>・S男も忍者になりきってごっこ遊びを楽しむ。</li> <li>・曲に合わせてのびのびと踊る姿が見られ、徐々にクラスみんなで踊ることを楽しむようになった。</li> <li>・<u>なりきることを恥ずかしがっていたM男も加わった。</u> <b>V-3 (1)</b></li> <li>・小道具がなく、困っている幼児がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自由な発想や表現を受け入れ、友達の面白さを伝える。</li> </ul> <p>○幼児が遊びを十分に楽しめる時間を保障する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★幼児が<u>心に縛りなく解放感を感じて遊べるように</u>、室内だけでなく園庭まで遊びを広げる。 <b>V-2 (2)</b></li> <li>○「<u>にんじゃりばんばん</u>」の曲を流す。 <b>V-3 (1)</b></li> <li>★幼児のアイデアを認め、教師も一緒に踊りながら、幼児の思いを繋ぎ合わせる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現を認めたり、自分やってみようと表現したりする姿が見られた。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を示していなかったS男が、<u>友達の楽しそうな雰囲気</u>に心を動され遊びに加わった。 <b>V-1 (1)</b></li> <li>・友達の表現に刺激され<u>心が動かされた。</u> <b>V-2 (1)</b></li> </ul>
<p>12月19日(木) 本時</p>	<p>忍者になりきって踊ることを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踊りに必要な小道具を作ったり、すでに持っている子は、さらに工夫を重ねている。</li> <li>・今日は踊ることよりも、小道具作りを楽しんでいる。</li> <li>・小道具が出来上がると、自分達で衣装や小道具を用意して踊り出す姿が見られる。</li> <li>・みんなで踊りを踊る。</li> </ul>	<p>○違った素材も用意し、さらに小道具作りが工夫できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★「<u>にんじゃりばんばん</u>」の曲を流し、踊り始める幼児と一緒に踊る。 <b>V-3 (1)</b></li> <li>★なりきって踊る姿を認め、教師も共に踊りを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忍者になりきり、生き生きと踊る姿が見られた。</li> </ul> 
<p><b>【考察】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が忍者ごっこを「おもしろそう」「楽しそう」と心を動かされたことが自ら遊びに加わるきっかけとなり、また、<u>一人一人の素朴な表現を受け止め、認める教師の援助</u>で、自分なりの表現をしようとする意欲が高まったと思われる (V-2 (1)) (V-2 (2))。</li> <li>・室内だけでなく忍者ごっこを園庭まで広げることにより、<u>幼児が心を解放し</u>、園庭の雰囲気から解放感を味わい、幼児同士が影響し合い、のびのびと自分なりの忍者を表現しようとする意欲が高まったと考える (V-2 (2))。</li> <li>・手裏剣や剣、忍者の衣装など、<u>幼児が本物らしく見立てて遊べるような素材を用意し</u>、友達の忍者になりきる姿が本物らしく見えたことで、自分もなりきって表現してみようとする意欲が湧いてきたと考える (V-3 (1))。</li> </ul>				
<p><b>【改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が充実感を味わうために、さらに<u>遊びを深めていけるような環境構成</u>や友達と<u>思いや考えを伝え合い</u>、イメージを共有する楽しさや創り出す喜びを感じるための教師の援助が足りなかったと思われる (V-1 (2))。</li> </ul>				



## 2 検証保育（2回目 1月）「トトロと忍者ごっこ」

### (1) 設定理由

前回の検証保育では、幼児が充実感を味わうために、さらに遊びを深めていけるような環境構成や友達と思いや考えを伝え合い、イメージを共有する楽しさや創り出す喜びを感じるための教師の援助が足りなかったと反省する。

今回の検証保育では、幼児がなりきって遊び、表現する過程を楽しめるようにすることで、遊びの充実感を味わい、創り出す喜びを感じられるのではないかと考え設定した。

### (2) 保育のねらい

① 友達と思いや考えを伝え合い、イメージを共有する楽しさや創り出す喜びを味わう。

### (3) 検証のねらい

① なりきって遊ぶ楽しさを味わい、幼児が表現する過程を大切にしたい、ごっこ遊びの環境構成と援助の工夫。（Ⅲ－2）

### (4) 検証保育の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
1月7日 (火)	友達と思いや考えを伝え合い、イメージを膨らませて遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内で忍者ごっこを楽しんでいる。</li> <li>・「僕は金色の忍者。」「僕は虹色の忍者。」等イメージが膨らんでいる。</li> <li>・「忍者じゃなくてトトロがいい。」「自分はお母さんトトロ。」と「トトロと忍者」のごっこ遊びが始まる。</li> <li>・「ねこバスも必要だよ。」とK子が<u>マットを「ねこバス」に見立て</u>、友達を乗せ運ぶ。<b>V-3 (2)</b></li> </ul> <p>R子：「お母さんは森にどんぐり拾いに行ってくるから、お家でみんな待っててね。」</p> <p>K子：「トトロ達を襲って、牢屋に入れよう。」悪い忍者がトトロを襲う話が出来上がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やさしい忍者助けてー。」</li> <li>・「小僧、俺がやっつけてやる。」</li> </ul>	<p>○環境構成 ★援助の工夫</p> <p>★教師も共に遊びを楽しむ。 ○「あかにんじゃ」の読み聞かせをする。</p> <p>★幼児の面白い発想を認め、他の幼児にも知らせる。</p> <p>★一人一人が、<u>イメージを膨らませ、自分なりの表現をしようとする姿を受け止め、認める。</u> <b>V-2 (1)</b></p> <p>○遊びをさらに楽しめるように時間を十分に取る。 <b>V-1 (2)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の認め合う仲間関係ができていて、友達の考えを受け入れている。</li> </ul> 
1月8日 (水)	幼児の表現しようとする思いを受け止め、よさを認める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日の続きを楽しんでいる。</li> <li>・「これで話もう終わりー。」「続き作りたいな。」と意見が出る。</li> <li>・「忍者が牢屋のトトロ助けたら。」「優しい忍者と悪い忍者が戦う話にしよう。」と、戦いごっこが始まる。</li> <li>・「悪い忍者は優しい忍者に謝って修行する話にしよう。」</li> <li>・「いいねー！面白そう。」</li> <li>・「滝に打たれる術」等「忍者の修行」のイメージが広がる。</li> </ul>	 <p>★互いのよさを伝えたり、幼児の表現をつなぎ合わせる。 <b>V-1 (3)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭で解放感を味わうことで忍者の動きを十分楽しむことができた。 <b>V-1 (3)</b></li> <li>・一人一人の表現をつなぎ合わせることで、ごっこ遊びの話の筋ができる。</li> </ul>

1月9日(木)	イメージを膨らませながら遊びを楽しむ。	忍者：「今日は、はさみうちしてトトロを捕まえよう。」 K子：「木になる術とか忍者の術を入れよう。」 ・昨日、他の遊びをしていた幼児も忍者の衣装や小道具を作り、なりきって遊ぶようになった。	★トトロや忍者の気持ちや動きを <u>考えることができる</u> ような言葉かけをする。 <b>V-1(3)</b> ○段ボールや違う厚さの紙を用意し、小道具作りが楽しめるようにする。	・表現しようとする意欲が高まった。 ・違った素材を用意したことで、小道具作りに興味を持ち始めた。
1月15日(水)	友達とイメージを共有して遊ぶ。	・今までとは違う役をなりたいが、試してみるが、役が足りなくなる。 T男：「1人2役すればいいさ。」 M子：「トトロだけの話にしない？」 K子：「絵本の面白かった所やろう。」など、様々な意見が出る。 ・演じて試してみるが「やっぱり最初の話にしよう」と、元の話に戻る。	★ <u>いろいろな役を演じてみたい気持ちを受け止める</u> 。 <b>V-2(1)</b> ★「となりのトトロ」の絵本を読み聞かせる。 ★自分達で解決する様子を見守る。	・イメージを共有して遊ぶことができなかった。 ・教師が見守ることで演じて試し、自分達で解決することができた。
1月20日(月)	自分達で遊びを進める楽しさを味わう。	・この日まで、役のグループに分かれ、自分達でごっこ遊びを進めてきた。 ・「先生、自分達でやるから、お客さんになって。」 ・見せたいという意識から、声や動きに変化が見られる。	○幼児がごっこ遊びを進める様子を見守る。 ★自信を持って演じている姿を認める。	・自信をもって演じるようになった。 ・友達と台詞を合わせようとして自分なりの言葉が出てこない子がいる。
1月22日(水)	自分なりの言葉で表現する。	R子：「どんぐりパーティーしよう。」 M子：「たくさんとったらだめだよ。」 K男：「どんぐりでかんばんしよう。」 T男：「いいねー。かんばんーい。」 ・おしゃべりしているような、幼児らしい言葉が出てきた。	★その場面で <u>感じた言葉を大事にする</u> ことを話す。 <b>V-2(1)</b> ★生き生きと表現している幼児を認め、他の幼児に知らせる。	・感じたことを思いのままに話すことで、生きた言葉になり、表情が生き生きしてきた。
1月23日(木)	「トトロと忍者」を演じることを楽しむ。 <b>(本時)</b>	・園庭で氷鬼をしながら、忍者になり、木に隠れたり、動きを楽しんでいる。 ・自分達でごっこ遊びの準備をする。 ・「トトロと忍者ごっこ」発表する。	○園庭で伸び伸びと遊ぶことで、ゆったりとごっこ遊びができるようにする。 ★必要に応じ援助し、安心できるような言葉をかける。 ★幼児のよさを認める。	・よさを認めるだけでなく、次の遊びへ深まるような言葉かけができなかった。

**【考察】**

- ・「忍者の術」を考え忍者の動きを楽しんだり、何度も繰り返し遊んだり、時には違う役を試したりする、幼児の自由な発想や表現を教師が認め、見守る援助をしたことで、自ら友達に考えを伝え合い、表現する過程や創り上げていく楽しさにつながったと考える (V-2(1)(2))。
- ・日頃から生活の中で、自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたり、認め合える仲間関係ができていることが、互いの表現に影響を受けて、豊かな表現につながると考えられる。

**【改善】**

- ・ごっこ遊びにおいて、役の心情や場面に合った動きを幼児が発想しやすいように、教師が絵本や物語の読み聞かせを充実し、幼児のイメージの蓄えをすること、遊びのタイミングを見計らいながら、遊びがさらに深まるような教師の援助が足りなかった (V-1(3))。



(5) 保育の展開 (本時)

平成 26 年 1 月 23 日 (木) さくら組 男児 6 名 女児 6 名 計 12 名 担任 仲本 留美子			
幼児の姿	○生活発表会に向けて、みんなで歌ったり、演じたりして友達と協力して進めていこうとする姿が見られる。	ねらい 内容	○自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
	○園庭で思いっきり体を動かし、色鬼や氷鬼など、クラスみんなで遊ぶことを楽しんでいる。		○みんなで気持ちを合わせて歌ったり、演じたりすることで、友達と一緒に心行く心地よさを感じる。
予想される幼児の活動	○環境構成 ★教師の援助		教育要領の視点
8:00 ○順次登園する。 ○あいさつをする。 ○所持品の始末をする。	★笑顔であいさつを交わし、一人一人の健康状態を視診する。 ○前日で1日の生活の流れを幼児と話し合い、見通しがもてるようにする。		言葉 内容(6)
8:15 ○花や野菜の水やりをする。 ○うさぎの世話をする。 ○好きな遊びをする。 ・戸外で遊ぶ。 (氷鬼, ブランコ, 鉄棒など)	★教師も共に水やりをしながら、 <u>幼児の発見や気づきに共感し</u> , 他の幼児にも伝える。 ★自ら進んでうさぎ当番をする姿を見守る (M先生)。 ★他の職員と事前に援助について話し合っておく。 ○ <u>戸外で十分に体を動かして遊び</u> , 開放感を味わえるようにする。 ★自分達で遊びを進める姿を見守り, 時には一緒に体を動かして遊ぶ。		人間関係 内容(3) 健康 内容(8)
9:30 ○手洗い・うがいをする。 ○ごっこ遊びの準備をする。	★自ら進んで手洗い・うがいをしている子を認める。 ★ <u>幼児が友達と協力しながら, 自分達で必要な小道具などを大切に準備している姿を見守り, 必要に応じて援助する。</u>		環境 内容(1)
○ごっこ遊びをする。 ・「トトロと忍者ごっこ」	○ごっこ遊びの中で, 必要なプレーヤー, CDを用意する。 ★必要な小道具などが準備できているか確認し, 幼児がのびのびと表現できるような言葉をかける。 ★ <u>幼児一人一人が感じたこと考えたことを自分なりに動きや言葉で表現している姿に共感し, 友達と協力して演じる楽しさを味わえるようにする。</u>		健康 内容(2)(3)
・「となりのトトロ」を歌う。	○教師もごっこ遊びに登場する大トトロになり, 「さんぽ」の曲をピアノで演奏する。(M先生)		健康 内容(7)(9)
10:15 ○感じたことを発表する。	○ <u>ごっこ遊びを進めて行く中で, 感じたことを発表する。</u> ★教師も幼児が役になりきって演じている姿を認め, 次の意欲に繋がるような言葉をかける。		人間関係 内容(2)(3) 環境 内容(6)
反省・評価	○ 幼児が感じたこと考えたことを言葉や動きで自分なりに表現する姿が見られたか? ○ なりきって演じる楽しさを味わうための援助の工夫ができたか?		表現 内容(4)(8) 人間関係 内容(8)
			言葉 内容(1)(2)

## VI 研究のまとめ

本研究において、幼児が主体的に活動し創造性を豊かにするために、なりきって表現するための環境構成の工夫と援助のあり方を探り、保育実践を繰り返し行った。結果、分かったことをまとめる。

### 1 環境の工夫と援助の工夫から

		環境構成	教師の援助
保育実践 12月	「忍者になりきって遊ぶ」	<p>○室内だけでなく忍者ごっこを園庭にまでも広げ、幼児が心の縛りなく自分のやりたい遊びができたことで、心を解放し、自分らしい表現を楽しめることが分かった。</p> <p>○本物らしく見立てて遊べるように、十分な素材の用意し、忍者の衣装や手裏剣などが本物らしく見えたとき、幼児はなりきって遊ぶことができると分かった。</p>	<p>○幼児の自由な発想と自由な表現を認めたことで、忍者のような動きや忍者の術を考えるなど、一人一人のアイデアが出て、表現しようとする意欲が高まることが分かった。</p> <p>○教師も一緒に忍者ごっこを楽しむことで、幼児の「楽しそう・やってみよう」という気持ちにつながる事が分かった。</p>
保育実践 1月	者ごっこ 「トトロと忍者」	<p>○椅子やマットなど身近ものを家やバスに見立てて遊ぶなど、友達の自由な発想と自由な表現を認め合える仲間関係が、ごっこ遊びにおいて大切であることが分かった。</p>	<p>○「ごっこ遊び」において、自分なりの言葉で生き生きと表現する過程を大切に援助したことで、表現する楽しさを味わい、幼児同士の表現が影響し合い、友達と創り上げる喜びを味わうことができることが分かった。</p>

## VII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 幼児が心に解放感を感じ遊ぶということは、幼児がありのままの自分が出せる雰囲気や、友達や教師に肯定的に受け入れられていると感じることができたとき、幼児は心に安心感や安定感をもち、心を解放して自分の本心や自分らしさを素直に表現し行動することが分かった (VI-1 (4))。
- (2) 幼児がなりきって遊ぶためには、本物らしく見立てて遊べる素材が身近にあり、幼児が友達と、共通のイメージをもち、幼児から見てその遊びがより本物らしく見えたとき、なりきって表現しようする意欲を高めることに有効である (VI-1 (4))。
- (3) ごっこ遊びにおいて、友達や先生の前でも安心して自分を出せる雰囲気や、生活の中で自分の思いを伝え、相手の思いを受け入れ認め合える仲間関係を育てることが有効である (VI-1 (4))。
- (4) ごっこ遊びで話の筋をまとめることを急がずに、幼児の自由な表現や発想を膨らませていく教師の援助をすることで、幼児が、演じることの楽しさを味わい、表現したいという意欲を高めることに有効な手段である (VI-2 (4))。

### 2 今後の課題

- (1) さらに主体性を発揮して遊ぶため、入園当初に自ら選んで遊べる環境、時間の保障、教師の言葉で幼児の心を縛らない援助の工夫 (V-1 (3))。
- (2) 一人一人の遊びの自己充実を図るため、幼児が遊びを次はどのようにしようとしているのか幼児の願いを教師が読み取る、遊びを深めるための環境構成や援助の工夫 (V-1 (3))。

#### 《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
無藤隆・柴崎正行・秋田喜代美 編著	『幼稚園教育要領の基本と解説』	フレーベル館	2008年
榎沢吉彦 編著	『保育内容・表現』	同文書院	2012年
森上士朗・柏女霊峰 編著	『保育用語辞典 第7版』	ミネルヴァ書房	2013年

